

法の流通

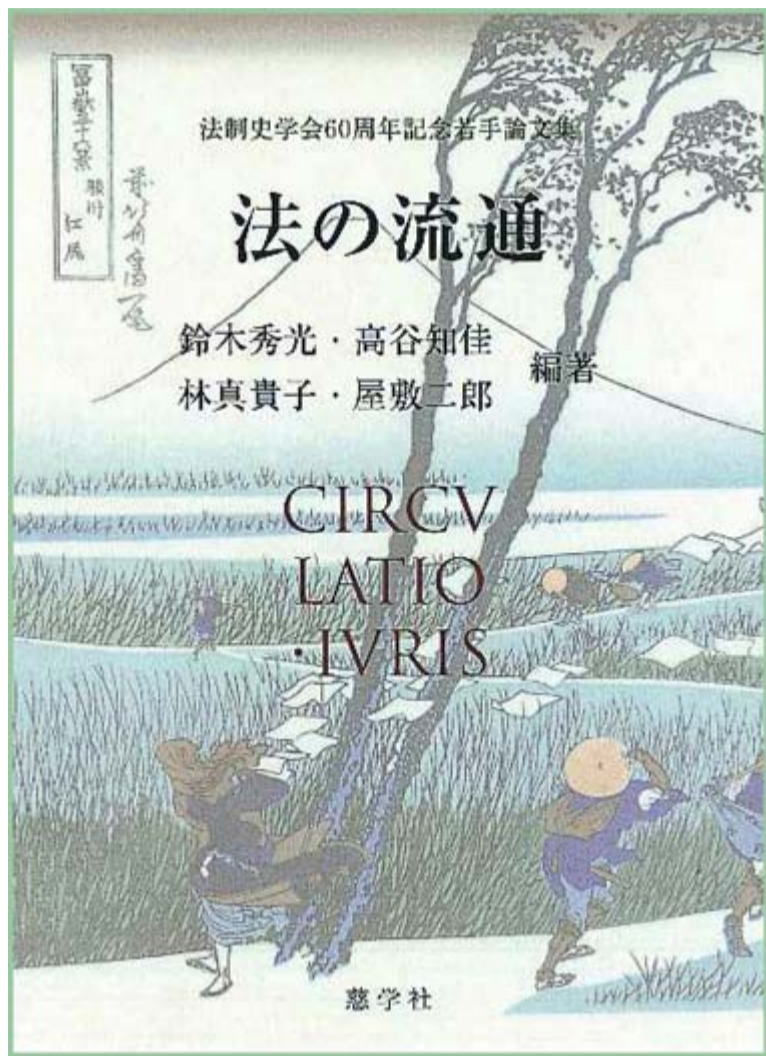
法制史学会60周年記念若手論文集

「法」とは何か——

選択・形成・循環のダイナミズムからとらえる
法制史学の未来への挑戦

編著：鈴木秀光・高谷知佳・林真貴子・屋敷二郎

ISBN978-4-903425-53-5 C3032
定価[本体9,400円+税] A5判 上製カバー 924ページ



本論集は、『法の流通』というテーマを掲げる。これまでの成果から学び取れることは、いかなる法であれ、平板な不変の規範でありつづけるのではなく、刻々と変化する政治・経済・文化の波につねに晒されながら、諸々のアクターの織り成す歴史の中で、あるときは不可避免的に、またあるときはしたたかに、形成され、選び取られ、活用されてきたということである。本論集では、こうした多元的・循環的なダイナミズムを『流通』と呼び、主眼に据える。

(中略)

いま必要とされるのは、若手研究者の真っ直ぐな関心のもとに捉えた「法」のあり方を、改めて一同に会し、互いの問題意識やアプローチを問い直してゆく試みである。それとともに、隣接諸科学の第一線で今日まで鍛えられてきた問題意識やアプローチに学び、時代や地域を越えた展望を持つことも、また重要である。本論集をそのための場としたい。(本書「序論」より)

[主要目次]

序論 法の流通

パートⅠ 収斂する法——秩序形成の諸相

- 総説[鈴木秀光]
- ◆ 享保期の養子法の改革と仮養子制度[稲垣知子]
- ◆ 明治初期における監獄制度の一転機——既決囚の発見[児玉圭司]
- ◆ 明治一四年「改正監獄則」下における監獄行政の展開と明治二二年「監獄則」制定への準備[姫嶋瑞穂]
- ◆ Poena Extraordinariaと自由心証主義——近世ドイツ刑事法の「近代化」の一局面[藤本幸二]
- ◆ 年紀法の再検討——御成敗式目八条の成立と運用をめぐって[松園潤一郎]
- ◆ 江戸幕府裁判制度に関する一考察——長崎奉行所を事例として[安高啓明]
- ◆ ドイツ絶対主義領邦における村役人——一七・一八世紀のリップペ伯領を例に[池田利昭]
- ◆ 秦・漢における亭の治安維持機能[水間大輔]
- ◆ 「獄成」の現場——清代後期刑事裁判における罪状自認と衆証[鈴木秀光]

パートⅡ 拡散する法——社会のダイナミズム

- 総説[高谷知佳]
- ◆ 初期中世日本の「裁許状」の機能について——「権門裁判」を中心にして[佐藤雄基]
- ◆ 湯起請をめぐる室町人の意識[清水克行]
- ◆ 中世南フランス都市トゥールーズにおける公証人と法実践[関師宣忠]
- ◆ 都市法の内と外——中世奈良の都市賦課をめぐって[高谷知佳]
- ◆ 『延暦儀式帳』撰進と弘仁大神宮式編纂の政治的背景——延喜伊勢大神宮式の前提[久禮旦雄]

執筆者紹介(五十音順、*印は編集委員)

赤城美恵子 あかぎ みえこ(専修大学非常勤講師、東洋法制史)

天野嘉子 あまの よしこ(慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程、日本法

- ◆ ビザンツ帝国を救うべき新法——総主教アタナシオスのネアラについて[橋川裕之]

- ◆ ドイツ王権による修道院保護とシトー会総会 [大貫俊夫]

- ◆ 司法政策と社会調査——ADR運動の歴史的展開をめぐって [久保秀雄]

パートⅢ 越境する法——法のダイナミズム

- 総説[林真貴子]
- ◆ 井上毅の参事院構想——コンセイユ・デタの日本の変容[天野嘉子]
- ◆ 中華民法親属継承編起草作業と慣習調査——Escarra報告書を手がかりに[西英昭]
- ◆ 帝国日本の行政救済法制[小野博司]
- ◆ 日本における法専門職の確立——職域の形成とその独占[林真貴子]
- ◆ 占領管理体制の法的特質[出口雄一]

パートⅣ 対流する法——概念と実践知

- 総説[屋敷二郎]
- ◆ オットー・ギールケとフーゴ・プロイス——主権概念をめぐる対立とその位相[遠藤泰弘]
- ◆ 英国における独立契約者(Independent Contractor)概念形成前史——民法七六条立法の起源をたどって[高友希子]
- ◆ 明治前期における「自然後見」概念と「家」原理——母の法的地位をめぐる訴訟を中心に[宇野文重]
- ◆ 「条理」の法思想史——明治八年太政官第一〇三号布告論小史[小沢奈々]
- ◆ 清代秋審條款考——人命門をてがかりとして[赤城美恵子]
- ◆ 「中华民国」における訴訟知識の伝播——訴訟手冊の登場[加藤雄三]
- ◆ アルトゥール・ヌスバウムの法事実研究——講壇と法実務の間 [屋敷二郎]

あとがき／年表／索引／執筆者紹介

佐藤雄基 さとう ゆうき(東京大学大学院人文社会系研究科博士課程、日本中世史)

制史)

池田利昭 いけだ としあき(北海道大学大学院文学研究科専門研究員、ドイツ中近世史)

稲垣知子 いながき ともこ(椋山女学園大学非常勤講師、日本法制史)

宇野文重 うの ふみえ(一橋大学大学院法学研究科日本法国際研究教育センター非常勤研究員、日本法制史)

遠藤泰弘 えんどう やすひろ(松山大学法学部准教授、西洋政治思想史)

大貫俊夫 おおぬき としお(トリーア大学第三専門分野歴史学科博士候補生、西洋中世史)

小沢奈々 おざわ なな(慶應義塾大学法学研究科後期博士課程、日本近代法史・比較法史)

小野博司 おの ひろし(甲子園大学総合教育研究機構助教、日本近代法史)

加藤雄三 かとう ゆうぞう(総合地球環境学研究所助教、東洋法史)

久保秀雄 くぼ ひでお(京都産業大学法学部助教、法社会学)

久禮旦雄 くれ あさお(京都大学大学院法学研究科博士後期課程、日本法制史)

児玉圭司 こだま けいじ(中央学院大学法学部非常勤講師、日本法制史)

清水克行 しみず かつゆき(明治大学商学部准教授、日本中世史)

図師宣忠 ずし のぶただ(京都大学大学院文学研究科非常勤講師、西洋中世史)

*鈴木秀光 すずき ひでみつ(専修大学法学部准教授、東洋法制史)

高友希子 たか ゆきこ(法政大学法学部准教授、西洋法制史)

*高谷知佳 たかたに ちか(京都大学大学院法学研究科准教授、日本法制史)

出口雄一 でぐち ゆういち(桐蔭横浜大学法学部准教授、日本法制史)

西 英昭 にし ひであき(九州大学法学研究院准教授、中国法・東洋法制史)

橋川裕之 はしかわ ひろゆき(静岡県立大学国際関係学部講師、西洋中世史)

*林真貴子 はやし まきこ(近畿大学法学部准教授、日本近代法史)

姫嶋瑞穂 ひめじま みずほ(神戸大学大学院法学研究科後期博士課程、日本法制史)

藤本幸二 ふじもと こうじ(岩手大学人文社会科学部准教授、刑事訴訟法・西洋法制史)

松園潤一郎 まつぞの じゅんいちろう(一橋大学大学院法学研究科博士後期課程、日本法制史)

水間大輔 みずま だいすけ(武漢大学簡帛研究中心博士後、中国古代史)

*屋敷二郎 やしき じろう(一橋大学大学院法学研究科准教授、西洋法制史)

安高啓明 やすたか ひろあき(西南学院大学博物館学芸員、日本法制史)